

新型コロナウイルスよ、さようなら！

今年も地域青少年ボランティア活動への協力をお願いいたします！！

「YY (やまがたヤング) ボランティアの集い」



■ ボランティア活動に携わる青少年たちの交流を進めるとともに、県内のボランティアサークル会員と指導者・担当者が活動を再確認することを目的として、12月12日(土)に「YY (やまがたヤング) ボランティアの集い」が開催されました。日帰り日程への変更等もありましたが、創学館高校と新庄北高校の生徒の皆さんが合わせて8名参加してくれました。

午前「YYボランティア」についての講義から始まり、まず、「ボランティアとは？」という基本的な部分から理解を深め合いました。1976

(昭和51)年に西川町教育委員会社会教育課に派遣社会教育主事として勤務

された堀米幹夫先生が、地区の高校生に声をかけて「下堀高校生ボランティア会」を発足させ、地区の子ども会の活動と連携して「おはよう走ろう会」をスタートさせたことが「YYボランティア」の始まりとされています。「YYボランティア」はまさに地域に根差した活動から始まっている、という歴史も学びました。

午後は鎌田光氏(山形県防災くらし安心部消費生活・地域安全課県民活動・防災ボランティア支援室主事)を講師に招き、「介護用ガウン」の作製を行いました。まず、2人組でペアになり、作り方についてのレクチャーを受けながら、透明なポリ袋を2枚張り合わせて作り始めました。シワが寄らないようにポリ袋を貼り合わせるのに悪戦苦闘していましたが、何着も作るうちに手慣れてきて、かなり手際よく作ることができるようになりました。最終的には3組のペアで25着を作製することができました。なお、今回作製した「介護用ガウン」は県を通して、県内の各介護施設等に寄贈される予定です。その後、ワークショップとして「自分たちが企画する地域活性化のためのボランティア活動」の計画と発表を行いました。自分たちが住んでいる町の良い所・悪い所を出し合い、地域についての理解を深め合いながら、自分たちがこれから暮らしていきたい理想的な町のスローガンについて考えました。コロナ禍の中ですが、率先してボランティア活動に興味を持ち参加してくれたみなさん、本当にありがとうございました。



TAT (TEAMオールてんどう) プロジェクト②



■ TATプロジェクトの一環として、12月25日(金)に天童市立舞鶴保育園と山形県青年の家をリモートで結んで、園児たちと触れ合う企画を行いました。この日は創学館高校の生徒たちが青年の家に来て、企画の準備とリモート出演をしました。まず、1班は「折り紙」を園児たちと一緒にを行いました。当日はクリスマスということもあり、赤と白の色紙を用いながら、サンタクロースの折り方をWEBカメラに向かって一生懸命にレクチャーすると、その映像が園児たちの前にも映し出され、園児たちは高校生の教えた通りに色紙を折っていました。また、色紙で折ったサンタクロースの袋には、園児たちが「親にプレゼント」したいものの絵を思い思いに描きながら楽しんでいました。つぎに、2班は絵本「クリスマスをみにいったヤシの木」の読み聞かせを行いました。園児たちに聞き取りやすいようにゆっくりと高校生が

リモートで語り掛けると、園児たちはスクリーンの絵本と声に「全集中」で見入っていました。天童市立舞鶴保育園の保育士の皆さん、園児の皆さんご協力ありがとうございました。



山形県青年の家体験講座③「地域の文化と食を学ぶ」



「地域の文化と食を学ぶ」を目的に「西沼田の秘伝豆で手前みそを作ろう」という講座を行いました。この体験講座は、地域で活動する青少年等に活動に役立つ知識や技術を習得してもらうとともに、新たな活動分野について考える機会を提供する目的で開催しています。今回は13名の方が参加し、まずは、本所の柴田研修主査が「みその歴史」と題した食文化講座を行い、みそについての見識を深めました。奈良時代に中国から伝来した「醤」から日本のみその歴史が始まり、平安時代に入ると貴族の食べ物として広まり、鎌倉時代以降は武士にも広まっていきました。戦国時代には戦陣食として重宝され、現在の「信州みそ」・「八丁みそ」・「仙台みそ」の礎となっていきました。さらに、江戸時代に入るとみそが庶民の味として庶民生活に馴染み、現在に至っている過程を知りました。みそ汁1杯の塩分量は、食パン1枚(6枚切り)よりも少ないという事実は非常に新鮮でした。つぎに、天童市西沼田遺跡公園職員の渡邊淑恵さん、秋保佐恵子さんを講師に招き、「みそ作り体験」を行いました。西沼田遺跡周辺で発掘された作物についての紹介後、西沼田遺跡公園で収穫された「秘伝豆」(下茹でされたもの)を、参加した皆さんが一斉に麺棒などで叩いて粒を潰しました。力を込めて潰していくと、秘伝豆の何とも言えない香ばしい香りが室内に漂ってきました。そして、潰し終わった秘伝豆に塩と米麴と豆のゆで汁を加え、ボウルで混ぜ合わせ、その混ぜ合わせたものを「みそ玉」にして今日のところは終了となりました。このみそ玉を風通しの良い場所に10か月ほど寝かせると、本当の「手前みそ」の完成になります。各ご家庭の寝かせ具合でどのような味になるか楽しみです。材料の下準備やみそ作り指導などご協力いただいた天童市西沼田遺跡公園のみなさん、本当にありがとうございました。



12・1月の利用団体

【宿泊利用】

- みつばちユナイテッド (バレーボール)
- 西崎クラブ (バレーボール)

【日帰り利用】

- 山口バドミントンスポ少
- KBC (バドミントン)
- OBD (バドミントン)
- 1バド (バドミントン)
- 天童高校バドミントン部
- 1st. BC (バスケットボール)
- THクラブ (バスケットボール)
- ハーツ (バスケットボール)
- 山形5中
- 男子バスケットボール部
- S・フリー (バスケットボール)
- かしわ男子バスケットボール
- ピボット (バスケットボール)
- MMC (ソフトテニス)
- 天2G (ソフトテニス)
- SPT (ソフトテニス)
- 天4中男子ソフトテニス
- AT4
- 天童スカイキッズ
- テニススポーツ少年団
- TKS (ソフトテニス)
- TGBスポーツ少年団 (ソフトテニス)
- 天童市ジュニアアスリートクラブ (陸上)
- 山形スマイルガールズ (鞆づくり)
- 山形県教育庁高校教育課 「医進塾」

- 山形県青年の家
- 「YYボランティアの集い」
- 「TATプロジェクト②」
- 「地域の食と文化を学ぶ」
- 「地域をつくるリーダーセミナー」



みつばちユナイテッド (12/5・6)



西崎クラブ (1/9・10)

あの頃の“青年”は？

10年毎に本所の所報を振り返り、当時の様子に思いを馳せてみたいと思います。今回は40年前の1980(昭和55)年の所報(山青の風NO. 110~112)を振り返ります。

① 友情の根っこ

現在も青年の家にある「友情の根っこ」は、今から40年前に当時の研修生一人一人の手によって、市内の阿部製材からいただいたケヤキの根っこの皮を剥ぎ、ピカピカに磨いて完成させました。40年経っても当時の輝きは未だに健在です！

② 昭和55年度 高校生ボランティア養成講座

北村山・西村山・東南村山の3つの地域から62名の高校生が、ジュニアリーダーとして果たすべき役割やそれに必要な知識・技能について学習しました。高校生のボランティア活動に関する営みが、現在に脈々と受け継がれているのです。



食堂も対策万全！！

青年の家では新型コロナウイルス感染症による利用者への影響を最小限にすべく、様々な対策を講じております。この度、食堂にパーテーションとロールカーテンを設置しました。



今後の主催事業

【2月】
2/27(土)
家庭教育支援研修会③
「健康講座とスラックライン体験」
申込締切：2/10

【3月】
2月をもちまして、今年度の主催事業は全て終了になります。